

歌唱教材「われは海の子」の特性と可能性

——教材となる楽曲の分析と解釈に基づいて——

長 島 真 人

(キーワード：唱歌，歌唱教材，「われは海の子」)

はじめに

歌唱共通教材「われは海の子」は、「尋常小学読本唱歌」(明治43年)に文部省唱歌として掲載され、今日まで、歌い継がれてきた歌唱教材である。この「尋常小学読本唱歌」は、文部省の委嘱によって作成された教科書であり、すでに出版されていた「尋常小学読本」の中に含まれていた韻文の教材を歌詞にして作曲が試みられ、歌唱教材にされたものである。「われは海の子」も、このような経緯の中で作曲された。当初は、歌詞が七番まであり、国家主義的な内容の歌唱教材であったが、第二次世界大戦中は軍国主義的な意味を強め、戦後はこの軍国主義的な意味づけを排除し、歌詞は三番までとされた。このような背景を持つ「われは海の子」は、馴染みのない文語体の歌詞で作られ、今日の生活の中では見ることが困難になってきた風景や事物が歌詞の中に現れてくるので、これを学ぶ子どもたちと教える教師の双方にとって難解な教材の一つになっていると言っても過言ではない。また、音域が非常に広いので、歌唱表現の工夫も容易ではない。そこで、本論文は、今日では難解な教材として受けとめられがちな「われは海の子」の歌唱共通教材としての価値内容を歴史的な背景をふまえながら吟味し、学習指導上の留意点を検討し、一つの学習指導過程を開発することを目的とする。

1. 「われは海の子」の歴史的背景と意味づけの変容

「われは海の子」は、文部省唱歌として紹介され、作詞者と作曲者の名前は紹介されてこなかった。作曲者の名前は、今日もなお不詳のままであるが、歌詞を創作したのは、文学者であった宮原晃一郎であることが明らかにされた。宮原は、明治15年に鹿児島県で生まれ、23歳から小樽新聞社の記者として勤務している時期に、文部省の新体詩懸賞募集に「海の子」と題した詩で応募し、佳作と認められた。¹⁾その後、この詩は、読本の教材として「尋常小学読本巻十一」に「我は海の子」と題して紹介され、さらに、「尋常小学読本唱歌」に同じ題名で唱歌の教材として紹介された。²⁾そして、この後、学年ごとに編纂された「尋常小学唱歌」の第六学年用に掲載された。³⁾詩の内容は、海辺の自然に囲まれて育った男の子がたくましい青年に成長し、海上に進出して殖産興業に貢献し、あるいは、国の防衛に関与することになるという人生を物語り、海事に関心を持たせようとする内容になっていた。

松岡保は、この楽曲に関して、「我国は四方悉く海であって、交通という方面より、又殖産という方面より、はたまた護国という点より見ても、海上の仕事が益々多くなる訳である。本課は之を唱歌して児童に海事思想を涵養して、進取、勇氣、冒険等の志操を奮起せしめるが目的である」と述べている。⁴⁾福井直秋も、この楽曲は、「海事思想を養ひ、児童の意気を昇進せしめんとするのが、この主題である」と述べている。⁵⁾また、福井は、「この歌は「海の子」などあれど、決して少年時代を歌えるものにあらず、海国の青年の意気を歌へるなり。第一、二節は、その生立ちを説いたものである」と述べている。⁶⁾

このような教材の意味づけは、昭和の初期に改訂された「新訂尋常小学唱歌」においても、同様の観点で受け継がれた。井上武士は、この歌詞に関して、「海国少年の意気を述べた歌詞である。この様な歌詞によって海国日本に生れた少年としての自覚と誇りとを十分に体得させ、海にしたしむ心を養うことができるであろう」と述べているように、少年という観点に視点を傾けながら、教授要旨として、「本歌曲を授けて変ホ調の歌曲の視唱に習熟させ、海国少年の意気を体得させて快活の情を養う」ことを明らかにしている。⁷⁾ここでは、国家主義的な時代を反映するような意味づけがなされている。

しかしながら、このような歌唱教材が、第二次世界大戦中は、軍国主義の色合いを強め、この楽曲に関しては、

「海国男児の意気を歌ったこの歌曲を授けて、志気を鼓舞し、忠君愛国の精神を養うとともに、形式の変わった二長調二部合唱の歌唱を会得させる」と述べ、さらに、「海国の強い子どもを歌い出すように、太い声で力強く歌う」と注意が述べられている。⁸⁾つまり、軍歌調に歌うことが示唆されている。

第二次世界大戦後は、墨ぬり教科書において軍国主義的な意味を帯びるようにされた七番の歌詞を削除し、これまでの教材としての意味づけは、全面的に否定された。⁹⁾さらに、最終的には、三番までの歌詞で歌われる教材に変更され、今日に及んでいる。この新しく意味づけられた「われは海の子」は、日本的な夏の自然の美しさを音楽から想像させる唱歌として扱われるようになった。

以上のように、「われは海の子」は、「尋常小学読本唱歌」や「尋常小学唱歌」に掲載された時代から、「新訂尋常小学唱歌」の時代、そして、「初等科音楽」の時代を経て、今日の検定教科書の時代に至っている。この歴史的な流れの中には、国家主義の思想に基づいて学校教育が展開された時代と超国家主義の思想によって軍国主義が強く現れた時代、そして、終戦後の民主主義の思想によって学校教育が再建された時代が確認され、それぞれの時代に一つの歌唱教材が意味を変容させながら活用されていたことが確認される。このような意味づけの変容は、個々の時代に活用された伴奏譜の中にみられる音楽的な特徴を吟味すると、いっそう明らかになる。そこで、次に、個々の時代に活用された「われは海の子」の伴奏譜の中にみられる旋律と和声の動きの特徴を分析しながら、教材の意味を検討していく。

2. 「われは海の子」の音楽的特性の変遷

「尋常小学唱歌」が編纂された直後に、福井によって、伴奏譜の出版が試みられた。¹⁰⁾この伴奏譜では、冒頭から六小節間は保続音によって静かに歌い出すように示唆され、第三フレーズ以降は、複雑な和声づけが試みられている。特に、第二フレーズと同じ旋律になっている第四フレーズの冒頭の音は、非和声音によって強調され、強く歌い出すように要求されている。(譜例1) また、この楽曲が変ホ長調であることに関して、福井は、「エルンスト パウアーは、変ホ長調は勇気と決心をあらわすによいもので、男性的な調であるといっているから、この曲に変「ホ」長調を採用されたことは誠に宜に合ったことと思う」と述べているように、この楽曲を力強い雰囲気気の歌として解釈していたことが確認される。¹¹⁾ここで、変ホ長調を男性的な調と指摘しているのは、おそらく、ベートーベンの交響曲第三番変ホ長調の影響に基づいているものと考えられる。

「新訂尋常小学唱歌」では、文部省によって伴奏譜が出版された。¹²⁾ここでは、今日でも知られている伴奏譜が確認される。この伴奏では、バス音が四分音符で動き続け、重厚な雰囲気を作り出されている。また、第二、第四フレーズの冒頭は、Ⅳの和音によって、サブドミナントの動きを強調している。特に、第四フレーズでは、弱進行によってⅣの和音に連結されている。さらに、この弱進行の前に、第三フレーズでは、属調への一時的な転調も確認される。典礼風の重厚な雰囲気を持った音楽にされているといえる。(譜例2)

国民学校時代に当たる昭和18年に出版された「初等科音楽 四 教師用」では、二部合唱に編曲され、伴奏は軍歌調の力強い音楽に変えられている。特に、第二、第四フレーズの第一小節目は、Ⅴの和音(ドミナント)が用いられ、その結果、強拍部にあたる第一拍目の付点四分音符と第三拍目の四分音符は、非和声音になり、アクセントが要求されるようになり、自然に力強い歌い方が導かれるように仕掛けられている。¹³⁾(譜例3) したがって、終戦直後の墨ぬり教科書では、「いで大船を乗出して 我は拾わんうみの富 いで軍艦に乗組みて 我は護らん海の国」という七番の歌詞は削除された。(譜例4) そして、その後の教科書では、「われは海の子」は姿を消すことになった。戦後の歌唱教材の選択において、軍国主義や超国家主義、神道に関係する唱歌が排除されていったからであった。

しかし、「われは海の子」は、昭和33年の学習指導要領によって、三番までの歌詞で完結される唱歌として新たに掲載されるようになり、今日まで歌い継がれるようになった。この新たに意味づけられた「われは海の子」は、当時明らかにされた伴奏譜を吟味すると、軍歌調に歌うように示唆された「初等科音楽」のものとはかなり異なった曲想の音楽として再出発したことが確認される。文部省が昭和34年に出版した「小学校学習指導書 音楽科・伴奏編(続)」に掲載されている伴奏譜では、「新訂尋常小学唱歌」と同様に、第二、第四フレーズの第一小節目は、Ⅳの和音(サブドミナント)が用いられ、その結果、弱拍部にあたる第二拍目の裏の八分音符と第四拍目の四分音符は、弱く表現することが要求される非和声音になり、懐かしい雰囲気の中で優しくなめらかに旋律の動きを表現するように要求されている。¹⁴⁾特に、「新訂尋常小学唱歌」においても指摘したように、第三フレーズから第四フレーズへの移行は、弱進行の動きになり、その結果、サブドミナントの動きが強調され、懐かしい

気分が一層強められている。また、この伴奏譜では、バス音の動きが簡素化され、「新訂尋常小学唱歌」において確認されたような重厚な雰囲気は取り除かれている。その結果、戦後の「われは海の子」は、白砂青松と呼ばれてきた夏の海のさわやかな風情の中で遊ぶ子どもたちの情景が懐かしく想像される歌として紹介され、愛唱歌として歌い継がれているように思われる。(譜例5)

以上のように、個々の時代に用いられた伴奏譜の中にみられる旋律と和声の動きに着目すると、「われは海の子」が時代精神によって異なった意味づけがなされ、異なった味わいや表現の工夫を促すように仕掛けられていることが確認される。そして、戦前の国家主義や戦中の超国家主義とは異なる意味づけによって、今日の「われは海の子」が教材として歌い継がれようとしていることが確認される。しかし、文語文の歌詞と広い音域を持つこの楽曲は、今日の子どもたちにとっては、難解な教材の一つとなっている。したがって、教師は、「われは海の子」の中にみられる音楽の形式的な特徴と内容的な特質を十分に吟味した上で、今日の子どもたちに適切な探究と表現を促すことができるような学習指導過程を工夫していかなければならない。そこで、次に、現在の子どもたちの状況に基づいた学習指導過程の一事例を提案する。

3. 学習指導過程の構想

先に述べたような「われは海の子」の歴史的背景と音楽的特性をふまえながら、また、来るべき社会に生きる今日の6年生の子どもたちの生活状況をふまえながら、一つの事例として、学習指導の基本構想を以下のように吟味した。

第1学期の生活を終えようとしている6年生の子どもたちは、これまでの音楽の学習において、「冬げしき」や「おぼろ月夜」のような文語体の歌詞による唱歌と出会ってきた。そして、子どもたちは、文語体の日本語の美しい響きを味わい、歌詞に描かれている日本的な自然の美しさと、音楽に象徴されている日本人の心情を探究し、自分なりに歌唱表現を工夫してきた。このような学習は、子どもたちが我が国の文化のよさを知ると同時に、日々の生活を主観的に深く、ていねいに見つめていく力を育んでいくために、ますます深めていかなければならないものである。

したがって、「われは海の子」は、6年生の子どもたちにとって、歌唱表現を工夫する力を伸ばし、第1学期の生活と来るべき夏休みの生活をより豊かなものにとらえ直していく上できわめて有効な教材である。歌詞は白砂青松と呼ばれてきた日本的な夏の海辺の美しさを描いている。楽曲の構造は、簡素な和声と旋律の動きによって、文語体の日本語による美しい響きが生かされるように仕組まれている。音楽はさわやかな夏の気分を象徴している。音域は、これまで学習してきた「冬げしき」や「おぼろ月夜」に比べると広くなり、歌唱表現の技をのばしていく上で適している。

具体的な指導にあたっては、文語体の日本語の美しい響きと、非和声音や最高音、旋律音形、リズムパターン、和声の動き等に注意を促し、子どもたちが旋律の中にみられる拍節の構造に気づき、楽曲が象徴している「さわやかな気分」を音楽から想像し、音楽の気持ちにふさわしい歌唱表現を工夫することができるように配慮した。そして、この楽曲との出会いを通して、子どもたちが自分の中に潜在していた「さわやかな気分」を確かめ、第1学期の生活をていねいに見つめ直し、小学生としては最後になる夏休みの生活を有意義に過ごすことができることを期待した。

以上のような基本構想に基づいて、学習目標は、1) 日本語の美しさと日本的な風情を想像させる唱歌のよさを知り、歌い継いでいこうとする気持ちを育むことができること、2) さわやかな夏の風情を象徴している楽曲全体の曲想を味わいながら、歌唱表現を工夫することができること、そして、これまで体験してきた夏の生活を思い出しながら、小学生最後の夏の日々をていねいに見つめることができること、3) 簡素な旋律の動きの中にみられる拍節の構造(音楽のエネルギーの動態)を生かしながら、歌唱表現を工夫することができること、を念頭におくことにした。そこで、文語体の日本語の響きに馴染み、旋律の動きに注意しながら歌詞唱することができることや、楽曲が描いている海辺の生活を想像しながら、歌唱表現を工夫することができること、楽曲の中にみられるふしのまとまりと音楽の盛り上がりを用意しながら歌詞唱することができること、楽曲の中にみられる歌の気持ち(さわやかな夏の風情)を想像しながら歌唱表現を工夫することができることを具体的な学習目標とし、以下に示すような学習指導過程を立案し、平成18年7月7日と10日に筆者自身によって授業を試みた。

音 楽 科 学 習 指 導 案

指導者 長島真人（鳴門教育大学）

学 年 6年生1組（鳴門教育大学 附属小学校）
 日 時 平成18年7月7日（金）10時45分～11時30分，7月10日（月）9時40分～10時25分
 単 元 「日本語の美しい響きを生かしながら，さわやかな夏の情景を歌おう」
 教 材 歌唱共通教材「われは海の子」（文部省唱歌）

- 単元目標**
1. 日本語の美しさと日本的な風情を想像させる唱歌のよさを知り，歌い継いでいこうとする気持ちを育むことができる。
 2. さわやかな夏の風情を象徴している楽曲全体の曲想を味わいながら，歌唱表現を工夫することができる。
 3. 簡素な旋律の動きの中にみられる拍節の構造（音楽のエネルギーの動態）を生かしながら，歌唱表現を工夫することができる。

指導計画（全2時間）

- 第一時 ・ 文語体の日本語の響きに馴染み，旋律の動きに注意しながら歌詞唱することができる。
 ・ 楽曲が描いている海辺の生活を想像しながら，歌唱表現を工夫することができる。
- 第二時 ・ 楽曲の中にみられるふしのまとまりと音楽の盛り上がりを生かしながら，歌詞唱することができる。
 ・ 楽曲の中にみられる歌の気持ち（さわやかな夏の風情）を想像しながら，歌唱表現を工夫することができる。

本時の目標（第一時）

- ・ 文語体の日本語の響きに馴染み，拍の流れに注意しながら歌詞唱することができる。
- ・ 楽曲が描いている夏の海辺の様子と人々のくらしを想像しながら，歌唱表現を工夫することができる。

本時の指導過程

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
導 入	1. 指導者と対面する。 ・ 既習曲を歌う。	1. 文語体の日本語の美しい響きが生かされた日本の歌を学習することが課題であることを伝える。 ・ 音楽の授業の雰囲気を高める。	・ 学習への構えが成立しているか。
展開(1)	2. 「われは海の子」の旋律の動きを聴唱法によって把握する。 ・ 範唱用CDで「われは海の子」を鑑賞し，文語体の歌詞による唱歌の雰囲気を味わう。 ・ 範唱を模倣しながら歌う。 ・ ピアノ伴奏をよりどころとしながら歌う。 ・ ピアノ伴奏を聴き，拍の流れに注意しながら旋律の動きを確認する。	2. 楽曲全体の雰囲気を感じ取らせる。 ・ 範唱用CDとピアノ伴奏から楽曲全体の雰囲気を把握させる。 ・ 四拍子の拍の流れにのって歌えるようにピアノ伴奏で注意を促す。特に，呼吸のタイミングに注意を促し，一緒にそろえて歌い始めることができるように工夫させる。	・ 自分なりに楽曲全体の雰囲気を特徴づけることができたか。 ・ 四拍子の拍の流れにのりながら，旋律の動きを概括的に把握することができたか。
展開(2)	3. 歌詞の意味と文語体の日本語の美しい響きに注意しながら，歌唱表現を工夫する。 ・ 文語体の日本語の響きを確認	3. 文語体の日本語の美しい響きを味わわせながら，歌唱表現として生かせるように工夫させる。	

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
	める。 ・ 歌詞の意味を確かめる。 ・ 文語体の日本語の美しい響きが旋律の動きの中に生かされた歌唱表現を工夫する。	・ 指導者の朗読を模倣させながら歌詞と一緒に朗読させ、七五調の歌詞の中にみられる言葉のリズムを確認させる。 ・ さわやかな夏の海辺の情景と人々の暮らしが描かれていることを確認させる。 ・ 「白波」と「いそべ」「松原」「とまや」「なぎさ」という歌詞に着目させ、写真を参考にさせながら、かつての日本のいたるところでみられた夏の海辺の自然と人々の暮らしの様子を音楽から想像させる。 ・ 言葉の響きが旋律の動きの中に生かされるように、発声に注意を促す。特に、文節の冒頭にある母音の発声に注意を促す。 ・ 文語体の日本語の美しい響きが生かされた歌唱表現を味わわせる	・ 歌詞の意味から描かれている情景を確認することができたか。 ・ 旋律の中に生かされている文語体の日本語の美しい響きに注意を向け、情景を音楽から想像しながら歌唱表現を工夫することができたか。
まとめ	4. 本時のまとめとして、ピアノ伴奏に合わせて、3 番まで通して歌う。 ・ 本時に注意したことを思い出しながら歌う。 ・ ワークシートで本時で学んだことを確認する。	4. 本時の学習で自分なりにとらえ直すことができた曲想を生かしながら歌唱表現することができるように注意を促す。 ・ 本時の成果を振り返り、次時の学習課題を伝える。	・ 文語体の日本語の美しい響きを生かしながら、歌唱表現を工夫することができたか。

本時の目標（第二時）

- ・ 楽曲の中にみられるふしのまとまりと音楽の盛り上がりを生かしながら、歌詞唱することができる。
- ・ 楽曲の中にみられる歌の気持ち（さわやかな気分）を想像しながら、歌唱表現を工夫することができる。

本時の指導過程

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
導 入	1. 本時の課題を確認する。 ・ 既習曲を歌う。	1. ふしのまとまりと音楽の盛り上がり注意到意しながら、歌唱表現を工夫することが課題であることを伝える。 ・ 音楽の授業の雰囲気高めめる。	・ 学習への構えが成立しているか。
展開(1)	2. 歌詞の意味と文語体の日本語の美しい響きを思い出しながら、歌唱表現を工夫する。 ・ 文語体の日本語の響きを復習する。 ・ 歌詞の意味を復習する。	2. 文語体の日本語の美しい響きを確認させながら、歌唱表現として生かせるように工夫させる。 ・ 指導者の朗読を模倣しながら歌詞と一緒に朗読させ、七五調の歌詞の中にみられる言葉のリズムを確認させる。 ・ さわやかな夏の海辺の情景と人々の暮らしが描かれていることを思い出させる。	・ 歌詞の意味を思いだし、描かれている情景を確認することができたか。 ・ 旋律の中に生かされている文語体の日本語の美しい響きを思い出し、情景を音楽から想

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
展開(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・文語体の日本語の美しい響きが旋律の動きの中に生かされた歌唱表現を思い出す。 ・範唱用 CD を聴き、文語体の日本語の美しい響きと歌の気持ちを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「白波」と「いそべ」「松原」「とまや」「なぎさ」という歌詞を確認させ、写真を参考にさせながら、かつての日本のいたるところでみられた夏の海辺の自然と人々の暮らしの様子を音楽から想像させる。 ・言葉の響きが旋律の動きの中に生かされるように、発声に注意を促す。特に、文節の冒頭にある母音の発声に注意を促す。 ・文語体の日本語の美しい響きが生かされた歌唱表現を味わわせる。 	<p>像しながら歌唱表現を工夫することができたか。</p>
	<p>3. 歌詞の意味とふしのまとまりに注意しながら、楽曲全体の曲想をとらえ直し、より豊かな歌唱表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の中にみられるエネルギーの推移に注意しながら範唱用 CD やピアノ伴奏を聴き、より豊かな旋律表現を工夫する。 ・歌詞の内容をよりどころとしながら、さわやかな日本の夏の風情を愛する気持ちを音楽から想像し、歌唱表現に生かせるように工夫する。 	<p>3. 歌詞の内容をより詳細に確認させると同時に、非和声音や最高音、旋律音形、リズムパターン、和声の動きによって特徴づけられている旋律の動きに注意を促し、文語体の日本語の美しい響きが生かされた歌唱表現を工夫させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和声の動きと旋律の動き、文語体の日本語の響きに注意を促し、旋律の動きの中にみられる緊張、アクセントピーク、弛緩の様態を確認させ、歌唱表現に生かすことができるように工夫させる。 ・「さわぐいそべ」や「わがなつかしき」「なみを」「すいて」「いみじき」という歌詞とサブドミナントを強調している和声の動きに着目させ、日本的な夏の風情を愛好している心情を音楽から想像させる。 ・楽曲が描いている情景や心情を音楽から想像させ、ふしのまとまりを生かしながら歌唱表現ができるように工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の中にみられる文語体の日本語の美しい響きと旋律の動きの中にみられる緊張、アクセントピーク、弛緩の様態を生かしながら、歌唱表現を工夫しているか。 ・楽曲の中にみられるさわやかな気分を味わいながら、歌唱表現を工夫しているか。
まとめ	<p>4. 本時のまとめとして、ピアノ伴奏に合わせて、3 番まで通して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で注意したことを思い出しながらかう。 ・ワークシートで本時で学んだことを確認する。 	<p>4. 本時の学習で自分なりにとらえ直すことができた曲想を生かしながらかう、歌唱表現を工夫することができるように注意を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の成果を振り返り、今後の学習課題を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文部省唱歌として歌い継がれてきた「われは海の子」のよさを自分なりに知ることができたか。

おわりに

「われは海の子」は、長い間、文部省唱歌として、子どもたちに歌われ続けてきた。この唱歌が初めて教科書に掲載されたとき、歌詞は7節まであり、海に囲まれた国に生まれ、海を通して世界の国々と交わり、日本を防衛する男子の人生を描いていた。つまり、富国強兵や殖産興業をめざしていた国家主義的な思潮に支えられながら、この唱歌は教材として意味づけられていた。第二次世界大戦の時代に入ると、この歌は、軍歌のように編曲されて、歌われた。つまり、この時代の軍国主義的な思潮によって、教材の意味が変更され、そのために、伴奏譜の和声づけも変更された。そして、戦後は、この唱歌が教科書に再度掲載されるようになったとき、歌詞は最初の3節までに留められ、夏の花で遊んでいる子どもたちを描いている歌として、指導されるようになった。ここでは、かつての国家主義的な意味づけや超国家主義的な意味づけが抹消され、日本的な自然の美しさを描く唱歌として、また、文語体の日本語の響きの美しさを味わわせる唱歌として意味づけられ、今日に至っている。このように、「われは海の子」は、歴史的な動向の中で、教材の意味を変容し続けてきた。本研究は、このような歴史的な背景をふまえながら、「われは海の子」を今日の子どものための歌唱教材として意味づけ、一つの指導事例を構想し、実践を試みた。実際に指導を試みた授業に参加した子どもたちにとって、文語体の日本語は、非日常的なものであった。しかし、子どもたちとともに群読しながら、歌詞の意味を確認させ、文語体の簡素な形態と美しい響きを納得させ、和声の動きをよりどころとさせながら、旋律の動きの中にみられる拍節構造の特徴を感受させ、音楽が語る意味内容を想像させるように授業を仕掛けていくと、子どもたちは、旋律表現の工夫の仕方を学び、自分なりに納得しながら歌唱表現を工夫することが可能になり、自分の表現の可能性を拡大させることができた。長く歌い継がれてきた歌唱教材は、この小論で示したように、歴史的な背景の中で、時代を特徴づけてきた思潮に基づいて意味づけを変更してきている。したがって、このような教材を扱う場合は、歴史的な背景をふまえながら、来るべき社会に生きる子どもたちのために新しい意味づけを模索していくことになる。換言するならば、子どもたちが一つの唱歌を歌い継ぐということは、子どもたちが常に新しい意味を創造しながら、音楽を通して自分たちの生活を豊かにしていくということになる。

注および参考・引用文献

- 1) 佐野靖 「童謡・唱歌 世代をつなぐメッセージ」 東洋館出版社 2000 pp.182-183
- 2) 文部省 「尋常小学読本」 卷十一 第六課 東京書籍 1910 pp.20-24, 文部省 「尋常小学読本唱歌」 国定教科書共同販売所 1910 pp.64-67
- 3) 文部省 「尋常小学唱歌」 国定教科書共同販売所 1911-1914
- 4) 松岡保 「尋常小学唱歌教材解説」 第6編 廣文堂書店 1912 p.40
- 5) 福井直秋 「尋常小学唱歌教授提要」下巻 共益商社書店 1916 p.64
- 6) 福井直秋 「尋常小学唱歌伴奏楽譜歌詞評釈」 共益商社書店 第六学年用 第二部 1911-1915 p.14-15
- 7) 井上武士 「新訂尋常小学唱歌の解説と其取扱」明治図書株式会社 (尋六) 1932-1937 p.167, p.173
- 8) 文部省 「初等科音楽 四 教師用」 (復刻本)『近代日本教科書教授法資料集成』 第10巻 1943 pp.461-464
- 9) 文部省 「初等科音楽 四 (墨ぬり後)」 大日本図書 1943 PP.42-47
- 10) 福井直秋 「尋常小学唱歌伴奏楽譜歌詞評釈」 第六学年用 第一部 1911-1915 p.7-8
- 11) 福井直秋 「尋常小学唱歌教授提要」下巻 1916 pp.64-65
- 12) 文部省 「新訂尋常小学唱歌伴奏附」 大日本図書株式会社 第六学年用 1933 pp.22-23
- 13) 文部省 「初等科音楽 四 教師用」 1943 pp.463-464
- 14) 文部省 「小学校学習指導書 音楽科・伴奏編(続)」 教育出版 1959 p.33

(譜例 1)

我 は 海 の 子

♩ = 126

Es: I ————— V — I ————— IV — I —————

————— IV₄⁶ ————— I ————— II₅⁶ — I₄⁶ — V₇ — I —————

————— II₅⁶ — V — I ————— IV — VI — I₇ — I —————

————— I ————— IV₆ — V₇ — VI — I ————— II₅⁶ — II₇⁶ — I₄⁶ — V₇ — I

福井直秋 「尋常小学唱歌伴奏楽譜歌詞評釈」(第 6 学年用) 1915 pp.7-8

(譜例 2)

我は海の子

♩ = 126

一ツ ーレハ ウ ミノ コ レ タナ ミ ノ
二 う まれ て し ーは に 甲 あみ し て
三 タ ーカ タ ハ ナツ タ イ ソノ カ ニ
四 やう ーよ の ろ かい ーあ やつ り て
五 イ タト セに ーコ ム キ タヘ タ ル
六 な ーみに たよ ム ひよう ーざ ん も
七 イ デオ ホ フ ーホ ラ ノ リダ レ テ

Es: I - V - I₆ - V₆ - I - V - I - IV - I

ケ ニム リ タ ナビ タ ト マ ヤ コ ソ
セ ーん り 上 せく る う み の き を
ナ ヤサ ノ マ ーツ ニ フ タ カ ゼ ラ
も も ひ ろ ら ひ ろ ーう み の そ こ
フ クシ ホ カ ーゼ ニ ク ロ ミ タ ル
う み ま き あ ぐ る ーた つ ま き も
イ デダ ン カ ーン ニ ノ リ タ ミ テ

- V - I - VI₆ - VI - V - B: II - I₆ - V₇ - I

サ ーワ ガ イ ソベ ノ マ ツ バ ラ ニ
な ーお を こ も り の う た と き き
フ ダン ノ ハ ーナ ノ カ ラ リ ア リ
四 ーく て さ た め ん な み ま く ら
タ ツヨ リ カ ータ キ カ ヒ ナ ア リ
き た ら ば き ーた れ お そ れ ん や
ワ ーレハ ヒ ロ ハ ン ク ミ ノ ト ミ

- IV - I₆ - I - II₆ - II₇ - I₆ - V₇ - I

ワ ガナ ツ カ ーシ キ ス ミ カ ナ レ
す ーひ て わ らべ と な り に け り
イ ミジ キ ガ ータ ト ワ レ ハ キ タ
あ ーそ ぶ な れ る に は ひ ろ し
ハ ーダ ハ シヤ ク ドウ ナ ナ ガ ラ ニ
お こ ら ば お ーこ れ お ど ろ か
ワ ーレハ マ モ ラ ン ク ミ ノ タ ニ

- IV - I₆ - I - II₆ - II₇ - I₆ - V₇ - I

(譜例 3)

われは海の子
二部合唱

♩=126

一ワレー
二うまー
三タカ
四イグ
五なみ
六イデー
七

一ワレーハ
二うまて
三タカ
四イグ
五なみ
六イデー
七

元氣 ♩=126

ハウミノコ シラナミノ サワグイソベノ
れてしほに りあみして なみこり
クハナツク イソノカニ フグンノハナ
よのうかハ あやつて りいり
トセコニ キタへル ナツヨ
にほふ いり さんし ならば
オホフネ ノ リダシ ヲレハ ヒロハン

ウミノコ シラミノ ナグイソベノ
しほに りあみして なみこり
ハナツク イソノカニ フグンノハナ
らかハ あやつて りいり
コニ キタへル ナツヨ
にほふ いり さんし ならば
フネヲ ノリダシ ヲレハ ヒロハン

マツバタニ ケムリ タナビク トマコ
いふにき せんり ませいの うみの
カタリアリ ナギサノ マツニ フカの
なみい りん れはら ちひら うみの
カヒナリ フクシホ カベニ クロミ
おもれん や ゝふま あいー なつ
ウミノトミ イダゲン カンニ ノリク

ソ カナ ツカシ キ スミ カナ
ソ カナ ツカシ キ スミ カナ
ソ カナ ツカシ キ スミ カナ
ソ カナ ツカシ キ スミ カナ
ソ カナ ツカシ キ スミ カナ
ソ カナ ツカシ キ スミ カナ
ソ カナ ツカシ キ スミ カナ
ソ カナ ツカシ キ スミ カナ

— I — V — I — I₆ — V — I —
— I₆ — V — I — V — I — (III₆) — IV — V —
— I — V — I — I₆ — V — I —

(譜例 4)

われは海の子
二部合唱

♩ = 126

一 二 三 四 五 六
ワレハ 海ノ子 ノミシカニ シヨイ アキ ヒナ ソノタナミ ノミシカニ ノミシカニ ノミシカニ

一 二 三 四 五 六
ワレハ 海ノ子 ノミシカニ シヨイ アキ ヒナ ソノタナミ ノミシカニ ノミシカニ ノミシカニ

文部省 「初等科音楽 四」 1943 pp.42-43 (墨ぬり後)

(譜例 5)

われは海の子

♩ = 126 文部省唱歌

28 (続) E♭: I IV-(I6)-IV

IV-(I6)-IV I I6 II♭7-IV7 I

IV-(I6)-IV I I6 II♭7-IV7 I

文部省 「小学校学習指導書 音楽科 伴奏編 (続)」 1959 p.33

Characteristics and Potentialities of the School Song “Ware-Wa-Uminoko”: Based on an Analysis and an Interpretation of the Song as a Music Teaching Material

NAGASHIMA Makoto

(Keywords : School Song, Song as a Teaching Material, “Ware-Wa-Uminoko”)

The school song “Ware-Wa-Uminoko (I am a son of the sea)” recommended by Monbu-syo (Ministry of Education) has been sung for a long time. When this song was introduced into the music textbook for elementary school children, the lyric of this song had seven stanzas. These stanzas described the life style of boys who were born in the homeland surrounded by the sea, were culturally interacting with people from other countries through the sea, and were defending their own country. During World War II, this song was arranged and sung as a military song. After the war, the original lyric of the song was arranged again so that the only first three stanzas has remained, and then, this song has got another meaning.

In this paper, I will discuss historical background of this song, and clarify the significance of this song as a contemporary school music teaching material. And then, I will explain that this song is effective teaching material for elementary school children to appreciate beautiful sound of the literary style of Japanese language, to imagine beautiful Japanese landscape, and to improve their singing skill.